



法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第63回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

全国連合小中学校長会会長賞



ふわふわ言葉からはじめませんか



鹿児島県・屋久島町立神山小学校6年

やました まき
山下 麻綺

わたしたちの学級では、普段友達と交わしている会話が「ふわふわ言葉」に当てはまるのか、それとも「ちくちく言葉」に当てはまるのかということ意識して過ごしています。

ふわふわ言葉とは、「ありがとう。」や「おはよう。」などのように相手の心をぽかぽかと温める言葉です。「それ、いいね。」や「上手だね。」、「すごいね。」といった言葉もふわふわ言葉に含まれます。一方、ちくちく言葉とは、ふわふわ言葉とは反対で相手に不愉快な思いをさせる言葉です。人に対する悪口はもちろんのこと、「うるさいから静かにしろ。」や「早く並べ。」といった命令口調もそれに当てはまります。

新年度が始まった四月、担任の先生が「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」に関係する本をもってきました。その本は「しあわせのバケツ」という本です。わたしは、この本が大好きです。

世界中のどんな人も、心の中にしあわせのバケツを持っています。そのバケツは、人を喜ばせると中身がいっぱいになり、逆に嫌なことをすると空っぽになってしまいます。誰もがお互いを思いやり親切にすればバケツの中はいっぱいになり、みんなが笑顔で幸せになれることを優しく説いてくれています。

この絵本をもとにして、わたしたちの学級では、「ふわふわ言葉でしあわせのバケツを満たんにする。」という学級目標があります。

四月からこの学級目標を意識して過ごしているので、今ではふわふわ言葉が当たり前になってきています。あいさつも当たり前です。ふわふわ言葉が教室にあふれてくると、教室が温かい雰囲気になり、みんなが笑顔に

なります。

地域の人たちにも、元気よくあいさつをすると明るく返事をしてくれます。そんな時、わたしは地域の人たちにも大切にしてもらっているんだなと思います。そして、たった一言のふわふわ言葉でしあわせのバケツが満たんになることを実感します。あいさつをすると自分だけでなく相手のバケツも満たんにできるので、わたしはこれからもあいさつを続けていこうと思います。

言葉は、ふわふわ言葉のように人の心を温める力を持っています。ところが、逆に人の心を冷やしてしまう力も持っています。それがちくちく言葉です。いじめや差別には、ちくちく言葉があふれています。

今までの学級で、いじめや差別をされている子がいました。その子に対していじめている子は、

「チビのくせに。」

「おまえのせいで負けたんだぞ。」

といったちくちく言葉を使っていました。今ふり返ってみると、いじめていた子は、なぜそんなことをしていたのだろうと思います。相手のしあわせのバケツの中に手を突っ込んで空っぽにしても、絶対に自分のバケツはいっぱいにはならないのに。

罪を犯した人に対する周りの人の態度にも考えさせられることがあります。確かに、罪を犯したことは悪いことです。しかし、反省して立ち直ろうとしているのに、その人を冷たい目で見たり陰でこそこそとちくちく言葉でうわさをしたりするのはどうでしょうか。その人は帰る場所さえなくなり、しあわせのバケツも空っぽになります。もしかすると、それがきっかけでまた犯罪に手を染めるかもしれません。その人たちを救うには、周りの人たちの温かい言葉、つまり、ふわふわ言葉をかけてあげることが必要だと思います。

過去に罪を犯した人が近所にいたら、正直なところ怖い気持ちになります。しかし、怖いからといって何も言葉を交わさなければ、その人のしあわせのバケツは空っぽのままです。

あいさつだけでもいいと思います。勇気を出して、たった一言のふわふわ言葉から始めませんか。たった一言のふわふわ言葉から明るい社会は築かれていくのだと思います。